

1、「多様性」と「空気を読む」

多様性とは何でしょうか？

日本人でも中国人でもどの国に所属していたとしても、さまざまな方々がいらっしゃいます。その時に、人として品性に欠ける態度を取ったとしたら、それはよくないことだと思います。それがたまたま中国人だったらどうでしょう？それでも、よくないことには間違いありません。それを中国人だからだと発言することもよくないのかもしれませんが、それ以上に、それを聞いて異常に反応することそのものが「多様性がない」と感じます。

オーストラリアに在住していた時に、日本人というよりアジア人と言われることがほとんどでした。友人が（オーストラリア人、西洋人です）駐車中の車にぶつけて警察を呼び待っていると、アジア人の私がぶつけた本人だと思い（西洋人の警察官2名）が真っ直ぐ私のところにきました。警察官の1名はすぐに納得していましたが、もう1名は「アジア人だから」と偏見を言い切っていました。

夫はその時に私に言いました。

「そう言われて反応することそのものが、マルチカルチャーを否定していることになる。アジア人なんですよ？」もっともだと思いました。

オーストラリアは、移民がたくさん住んでいるマルチカルチャーの国でそんな話はたくさん転がっていて、それをいちいち取り上げていることそのものが「教養がない」と判断されました。

日本に住んでいると、単一民族の歴史が長いだけに、そういった発言に敏感に眉を潜め、いちいち拳を上げてしまう方がいらっしゃいますが、そのことそのものが「多様性からかけ離れている」と感じます。もし多様性を兼ね備えていたら、〇〇人という発言はサラッと抜けるはずなんです。そういった意味では、本音と建前がないオーストラリアは大変シンプルでわかりやすい国でもありました。

「空気を読む」という言葉は好きではありませんが、本音と建前がある日本にはそういった言葉が必要なのかなとも思いますし、また、「根回し」という言葉もそうかなとも思います。

日本に帰国するまで無縁な言葉でしたので、そういった「空気を読む」や「根回し」という行為がなくてもシンプルに生きていける世の中になると、もう少し楽に生きていけるのかなと感じ、そういったことのないように努めてきました。

「相手の気持ちを思いやる」は、こういった状況でも大事だと思います。ただし、間違っただけで思いやられた方は、迷惑だろうなと感じています。

自分では思いやったつもりでも、間違っただけ「空気を読む」で思いやった場合、相手は重荷に感じるでしょう。

「多様性」一人の価値観で判断することのないようにしていきたいですね。一人が思う「多様性」ともう一人が思う「多様性」そのものが違うわけですから。

「みんなちがって、みんないいんです」

2、「擲揄」と「受容」

アンケートのご協力ありがとうございました。

「受容だけでなく、アウトプットができるようになってほしい。そういったことを教えてほしい。」と貴重なご意見ありがとうございました。

勘違いがあるといけませんので、ここで皆様と確認をしたいと思います。「受容」は、先生方がする行為であり、子どもたちにまで「受容」をしましょうとは保育はしていません。

「受容」=それでいいんだよと子どもの行為を認めて受け止めることを先生がする

というのが子ども園の受容です。

ですので、お子様がたとえばたくさん言葉でアウトプットした場合は、それを先生方は「受容」しております。

それがアウトプットが育つ近道でもあるかと存じます。

また、自己肯定感も高まりますね。

「受容」は先生方。お子様は自由にアウトプット。ただし、先生から教えていただくのではなく、先生方が整えた環境の中で、主体的にアウトプットできることが大切です。アウトプットの方法を習うことは意味がないように思います。そうしたいと思えることが、私たちの役目です。そのために「先生が受容」します。

また、絵本を通してたくさんの新しい言葉に出会うことも大切です。それを頭の中に溜め込みをしておく、ある日使おうとする日が必ず来ますので、術を教えるのではなく、その日を待つのです。プロとしての環境設定をしておいて。。。ということになります。

「擲揄」と言えるのは、その状況や背景を把握した人が言っても良い言葉だと思います。もしかしたら様々な背景や事情がありしている行動を、そのように捉え判断してしまうことは、子どもや大人共通でいけないことだなと感じます。

例えば、お子様同士の喧嘩が起きた時、ついやられた方ばかり庇ってしまいがちですが、やった方にはそれなりに理由があるわけですから、相手を思い遣らずにふざけてお友達を傷つけていると、短絡的に「擲揄」と言ってしまうのはよくないと思います。

それは大人にも言えます。その方との関係性や信頼関係の中でふざけている、もしくは鼓舞している、もしくは励ましている、もしくは、、、、、、ということ、全くそれを知らずに、知らうともせずに「擲揄」と判断するのはいけないことだなと思います。

一方的な見方しかできないのは、大きく判断を誤ってしまうという事だと、子どもたちや先生方と日々接している中で、私がここで一番学び、お子様方や先生方そして保護者の皆様に教えていただき、成長させていただいている部分だなと強く感じます。感謝いたします。

どうか、良いお年をお迎えくださいませ。